

# Xプレス・ファイターズ

## 九州・北海道で航路開設へ

大手ファイター船社のXプレス・ファイターズは、早ければ来年にも日本発着航路に自社運航船を投入する計画だ。今年5月から、スペースチャーターで日本―海峽地帯―韓国・釜山とを結ぶファイター航路開設を検討している。アジア・中東地域を担当するフランス・ゴウ・マネーディングタイレクターは「日本発着貨物の取り扱い、まだまだ多くはないものの順調に伸びている。既存のマーケットでシェアを争うのではなく、新たな価値を提供したい」と話す。また大手船社への規模集約が進むなか、「サブライチエーション全体の効率化やコスト削減などに取り組むパートナーになりたい」との考えを示した。

## 釜山に接続、来年にも自社船投入を視野に

に参入。センワマリタイム・エージェンシーを総代理店として起用し、まずCMACとAPLが共同運航する日本―海峽地帯―釜山からスペースを借り受ける形で日本発着サービスを開始した。開始から約半年が経過したが、ゴウ・マネーディングタイレクターによると、「まだ全体のボリュームは多くはないが、一部の船社が利用を開始しており、その後の伸びも見込めた」という。

### 平野ロジスティクス



## 96空調大型車で ASML社の看板トラック運行開始

平野ロジスティクスは、半導体製造装置会社エーエスエムエール(本社・オランダ)のデザインが施された大型空調トラックが施された大型空調トラックの運行を開始した。同社の輸入貨物半導体製造装置の輸送を担うトラック。デザインには「Supporting the Japan see semiconductor industry」[To make microchips faster, see haller, greener]のフレーズが施されている。お披露目の際に、エーエスエムエール・ジャパンのベルト・サボナイエ社長は「トラックに施されたメッセージは、われわれの思いが込められたもの。物流は特に重視すべき分野であり、日本のお客さまの生産をバックアップしていきたい」と言及。また「トラックが運行され

### 平野ロジスティクス

「写真」の運行を開始した。同社の輸入貨物半導体製造装置の輸送を担うトラック。デザインには「Supporting the Japan see semiconductor industry」[To make microchips faster, see haller, greener]のフレーズが施されている。お披露目の際に、エーエスエムエール・ジャパンのベルト・サボナイエ社長は「トラックに施されたメッセージは、われわれの思いが込められたもの。物流は特に重視すべき分野であり、日本のお客さまの生産をバックアップしていきたい」と言及。また「トラックが運行され

ために新たな価値を提供することを目指したい。日本は、全体としての貨物量は決して少なくないが、港の分散が進んだ結果、大手船社にとっては直接寄港が難しくなっている。ファイター船社としての役割は大きい」とゴウ・マネーディングタイレクターは話す。顧客となる大手船社の数が再編で半減したことで、事業環境は大きく変わらなつた。契約を取れる取れないによって受ける影響が大きくなり、アップダウンが激しくなる。ただ当社は全世界にネットワークを持ち、スケールでも運営の効率性でも競争力がある。ファイター船社としてコスト競争力のあるサービスを

きょうの紙面

2面 全日空 邦人航空初のCEIV認証

3面 パンスター 航路改編で名古屋に寄港

4面 CARGO リポート 財務省・16年度の輸入事後調査 関税等追徴額、3年連続増

6面 センコーグループのスカイリフト 21年度売上高50億円へ



ケン・アレンCEOは最新テクノロジへの向き合つた姿勢についても語った

Xプレス・ファイターズはシンガポールに本社を置く世界最大のファイター船社で、欧州ではハンブルク、米州ではパナマにそれぞれ地域拠点を置く。現在のコンテナ運航船は約100隻で、そのうち約半数をアジア域内で運航。船腹規模ではワンハイラインに次いで世界17位となる。

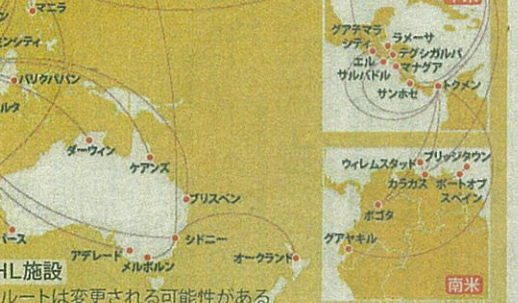
これまではアジア域内でシンガポール、釜山、高雄、コロンボなどのハブ港を中心にサービスを展開していたが、今年春から日本市場

さらに現在、検討しているのが日本と釜山とを結ぶファイターサービスの開設だ。スペースチャーターではなく、数百TEUクラスの自社運航船を1隻ないし2隻投入することを想定しており、実現すれば同社として初の日本直接寄港となる。九州や本州、北海道発

## 「オープンマインド」 DHLエクスプレス ケン・アレンCEO



ケン・アレンCEOは最新テクノロジへの向き合つた姿勢についても語った



U) 離脱(ブレクジット)により経済的にそれほど大きな変化があるとは考えていない。従来の通関制度が維持されなければ、われわれが頼られるケースもあるだろう。米トランプ大統領によるTPP(環太平洋パートナーシップ協定)離脱による影響は、貿易成長は基本的には続く。

▽CAHの投資計画を急進させた理由は、事業が急速に成長していることだ。IoT(モノのインターネット)などテクノロジー業界ではさまざまなことがあ

州のような大規模経済がある国・地域も回復基調にある。国際通貨基金(IMF)の報告によれば、欧州は過去15年で最も急速に経済成長を遂げている。革命的なEC市場の成長も追い風だ。

【テクノロジの進化】▽ビッグデータ(BD)、IoT(モノのインターネット)などテクノロジー業界ではさまざまなことがあ

で望むことを重視している。テクノロジは世の中のさまざまなスピードを速め、ドライブしている。ビジネスの決定も早くすることが重要であり、また、事業面では貨物便の遅延やハブ港など災害に見舞われた際、柔軟に対応する必要がある。そのためには、オープンなメンタリティーを持ち続ける。言いつは易し行は難しだが、心掛けて